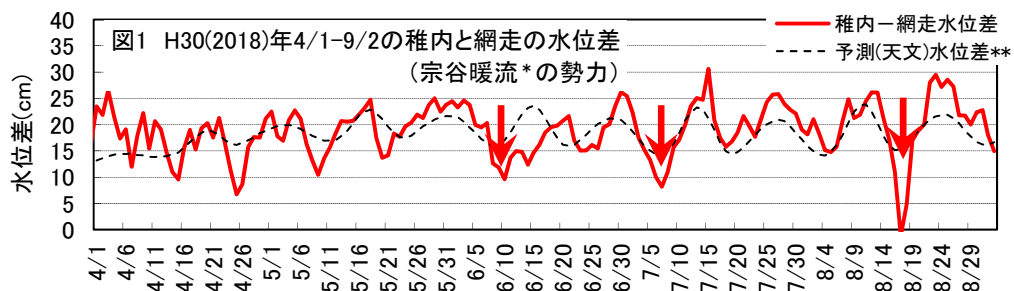


オホーツク海宗谷暖流情報

(H30(2018)年9月上旬)

H30(2018)年9月3日
中央水産試験場資源管理部
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田・佐藤)

- 9月上旬現在、宗谷暖流の勢力は例年並みです(図1)。
- オホーツク海沖合の海面水温は、宗谷暖流外側の湧昇域を除いて、Atの好む水温範囲(5-15°C)を超えて上昇していることから(図2)、Atは消滅に向かっていているものと推測されます。今夏は三度にわたって宗谷暖流の弱勢が観測され(図1, 赤矢印↓)、麻痺性貝毒の発生が危惧されましたが、結果として毒性値の上昇はわずかでした。今後、毒性値が上昇する可能性は低いものと考えられます。
- 宗谷暖流情報は今回で終了します。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており、この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。
**水位差の予測値は、潮汐表として公開されている予測(天文)潮位から算出することができます(実測値は気圧と風の影響を受けて変動します)。

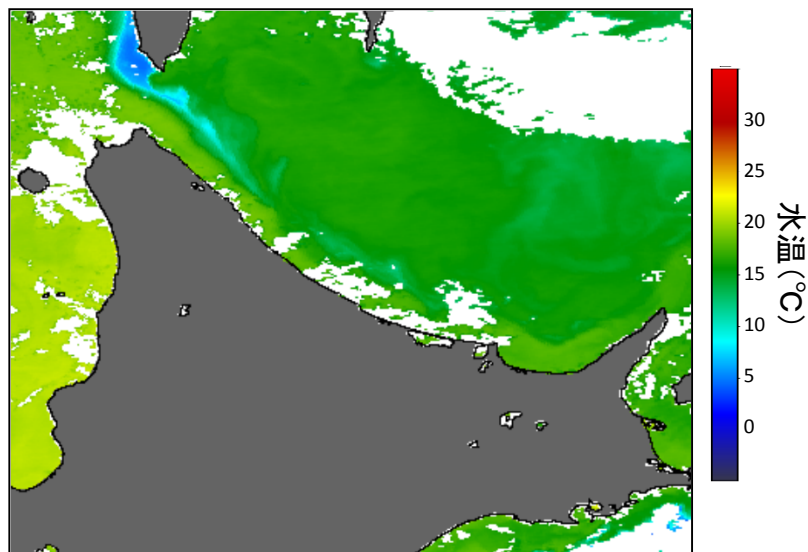


図2 H30(2018)年9/1の海面水温

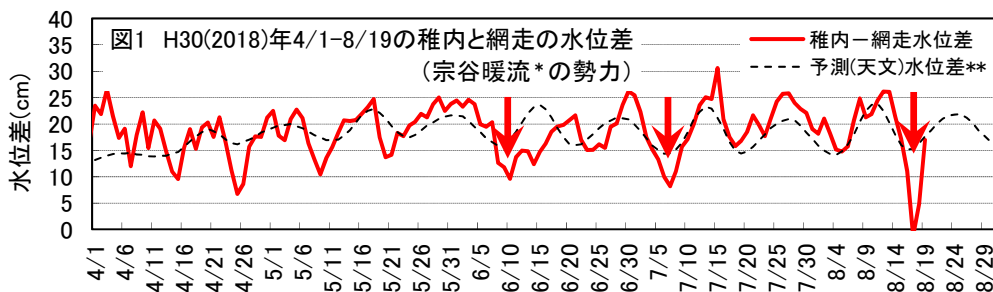
(http://www.eorc.jaxa.jp/cgi-bin/adeos/modis_index.cgi より)

オホーツク海宗谷暖流情報

(H30(2018)年8月中旬)

H30(2018)年8月20日
中央水産試験場資源管理部
(担当: 海洋環境G 嶋田・品田・佐藤)

- 8/17-18に今夏三度目となる宗谷暖流の弱勢が観測されました(図1, 赤矢印↓)。麻痺性貝毒プランクトンAtの出現ピークは過ぎたと思われませんが、7月下旬の出現状況(図2)を考慮すると、今しばらく麻痺性毒性値の上昇に警戒が必要です。
- 宗谷暖流の勢力については、適宜情報として発信予定です。



*宗谷暖流は日本海とオホーツク海の水位の落差が大きいほど強く流れることが分かっており、この落差は、稚内と網走の水位差で代表できることが分かっています。
**水位差の予測値は、潮汐表として公開されている予測(天文)潮位から算出することができます(実測値は気圧と風の影響を受けて変動します)。

